Takashima Toujyu Kai



2021.8.18

発 行 NPO法人 高島藤樹会

〒520-1224 滋賀県高島市安曇川町上小川 225-1 藤樹書院・良知館内 電話·FAX 0740(32)4156

入会の動機

高島藤樹会理事

伊

庭

郁

夫

(題字は、竹脇曇卿先生によるものです)

る。川越清司 機は不純であ 樹会入会の動 私の高島藤

先生の像があ 氏から「藤樹

折角なので「藤樹先生」のことを聞ればチャンス 数年ぶりで地元高島に帰ってきた。 市外で勤務することが多かった。十 う言葉を耳にした。永年大津等高島 会に入会すれば一万円になる」とい 万二千円する。 もし高島藤樹

到来とばかり れることにし に足を踏み入 に高島藤樹会

立志祭」

内の小学三年生を対象に藤樹先生の お話をすることになっているそうで 属することになる。 初年度から理事会の広報委員会に (特に広報委員は) 理事は、 高島市

> 頂くと、手作りの資料を作成されて 南小学校であった。打合せに寄せて おり熱意を感じた。

四年生も合同で取り組むことになっ 祭を実施できていない小学校では、

の資料の紹介や多方面からのお話が

の学びである。また、

民館で「藤樹人間学塾」

の解について 会長から多く

が開催され

田中清行会長のもと毎月安曇川

が苦手であった。その了佐のために 心配する声もありながら、二人三脚 了佐ひとりのために心血を注がれ 藤樹先生は分かりやすい解説にして 者になろうと志を立てるも、 のお話をすることにした。何とか医 れたことに由来するそうである。 来立派な聖人になる」と志を立てら 藤樹先生の像」で興味付けをした。 また、立志ということで大野了佐 導入では、 周りからは、藤樹先生の体調を 風呂敷に包んだ前述の 物覚え

身も人づ たそうであ くりをされ

合一」があ つに「知行 な言葉の一 私の好き

を実際の生活に生かすことが大切で 言葉と意味を紹介した。 小学生にも 「知行合 学んだこと 一」という

新型コロナの関係で昨年度は立志

で志を達成された。 「立志祭」とは、 藤樹先生が 更に大野了佐自

された。

マキノ西小学校とマキノ

藤樹人間学塾

これを引きずると幸せに結びつかな が見えないなどが【痛み】である。 ある。足が思うように動かない、 そして「第二の矢」は【苦しみ】 聞けるのも魅力である。 つの矢」について実例を紹介したい。 「第一の矢」は【痛み】である。 その中からで心に残っている「二 で

中失明され全盲である。 の「松宮喜子」さんがおられる。 い。切り離すこと大事である。 私の知り合いに安曇川町にお住 途い

れた。 ク・パラリンピックの聖火リレーで 話され、実際にサポートを得ながら た。更に、 を回し「パラ水泳」をイメージされ 精神に満ちている。オリンピッ その生き様は、 雨の中メタセコイヤ並木を走ら たすきの中継では、 アーチェリーをしたいと 好奇心とチャレン 大きく腕



である。 ことの体現 物」という と不幸は別 「不自由

ひじりの声上田藤市郎

は な出来事をほぼ同時的に知る 様々な出来事をほぼ同時的に知る がの国では政府の方針に反対する かの国では政府の方針に反対する がの国では政府の方針に反対する がの国では政府の方針に反対する がの国では政府の方針に反対する が報道されている。日本にもその が報道されている。日本にもその が報道されている。日本にもその

忍従を強いられる。
に把握されるかによって少数派は権力や軍事力がどのような多数派権力や軍事力がどのような多数派を、内政干渉として拒絶している。護の視点から寄せられる他国の声護の視点からある、これらの国は、人権擁しかも、これらの国は、人権擁

劇が生ずる。
団が形成されると、このような悲せ、倫理観、良心などというよう性、倫理観、良心などというよう

「ことば」こそが、人の心を動かす。無力ではない。空しく見えても、有るような考えを持つ人々が力強するような考えを持つ人々が力強するような考えを持つ人々が力強するような考えを持つ人々が力強するようなが、最善の策であろ教無類」こそが、最善の策であろう。自分と他人とを本当に大切にう。自分と他人とを本当に大切につまるところは、人づくり、「有つまるところは、人づくり、「有

1939 來對 令和三年度

)で。 含め)百十名の出席を得て開催しま 防止のため書面表決〈九十一名〉を において、総会を(コロナ感染拡大 六月十三日(日)、安曇川公民館

(事務局)

令和三年度 総会

り、承認されました。報告と決算報告並びに監査報告があました。はじめに令和二年度の事業さんが議長に選出され、議事に入り田中清行会長の挨拶の後、志村洋田中清行会長の挨拶の後、志村洋

次に、報告事項である令和三年度 事業計画及び予算が事務局から報告 する件、及び理事の選任の件(青柳 小学校校長の土永晶さんが新理事 に)が承認され、総会を閉じました。 に)が承認され、総会を閉じました。 なお、会員の皆様には、今年度の 事業計画等について、再度、総会資 事業計画等について、再度、総会資 引き続き、今年度の藤樹賞受賞者 の報告と表彰式が行われ、その後、 の報告と表彰式が行われ、その後、

藤樹賞受賞者の報告と表彰式

表彰委員会

します。 渕田良子様の表彰理由について説明 藤樹賞受賞者 渕田隆雄様と奥様

生の遺徳を千歳に崇うし(あがめ) 生の遺徳を千歳に崇うし(あがめ) 民徳(人民の道徳)の磨励(礪)[務 め励んで修養すること]文教[学問 め励んで修養すること]文教[学問 め励んで修養すること]文教[学問 とあります。

応じて解説をされてきています。詰めて、藤樹書院の来訪者の希望にれる現在も月に六回程度、良知館に隊を退職された後、八十四歳になら



樹書院ガイドブック『中江藤樹 百六十七ページにわたる「別冊 書ともいうべき六十四ページの「ガ 勉強の成果を生かして、解説の教科 は、それまでの藤樹先生についての ことになりました。渕田隆雄さん のを機に、希望に応じて解説をする かったそうですが、良知館ができる は来訪者への説明は特にしていな なるので、初めは書院の一室に詰 参考にされています。 解説に当たっている皆さんも解説の 涯と思想』」を作成されました。現在、 て、来訪者の対応に当たられていま イドブック『藤樹書院』」さらに、 した。そのころ、担当されていた方 良知館ができてから近く二十年に

繋がりました。「天明の人」小説中江藤樹」出版に「天明の人」小説中江藤樹」出版にドラマを思い浮かべるような筆致のドラマを思い浮かべるような筆致のい思いは、二○○一年六月に大河の思いは、二○○一年六月に大河

ということです。
た生の遺徳を伝える作品を著作中だて、小説とはまた別の角度から藤樹

良知館のトイレに始まる館内、書院とを二十年間にわたって続けていたを訪れるとき、塵一つ落ちていないのが普通になっていますが、そのために大変になっていますが、そのために大変になっていますが、そのために大変になっていますが、そのために大変な苦労をしていただいているというな苦労をしていただいているというな苦労をしていただいているというな苦労をしていただいているというできています。

と隆雄さんはおっしゃいます。き届いた書院の佇まいにこそある」藤樹先生の教えは、「手入れの行

彰の理由とさせていただきます。
を、言葉足らずではありますが、表がさせていただくことになりましたの方」にあたるということで、表がさせていただくことになりました。言葉足らずではありますが、表である「藤樹先生の生き方や考えって活動されている団体や個方に共感し、それを広めようというである「藤樹先生の生き方や考え

藤樹賞受賞記念講演のあらまし令和三年度(高島藤樹会)

表彰委員会 渕田 豊朗

に参加者が制限されたので、あらまりました。コロナ感染症対策のため清行会長から賞状と記念品が渡され、代表して隆雄様の記念講演がありました。コロナ感染症対策のため方に総会の後、藤樹賞受賞式があり、



→藤樹先生年譜から演題:「この道の任」について訳、先生に対する敬語は略しました。しを紹介します。なお『』内は現代

講ず。門人従って藤樹先生と称す。」仕へ、后、致仕して藤樹の下に学を衛門(中略)先生少より出て予州に字は隂命、姓は中江氏、仮名は與右字は隂命、姓は中江氏、仮名は與右字は隂命、

も哀しむことなく、能く祖父母に孝を離れて遠く行くといへども、一毫 う名前を付けたのだと思います。 関ケ原の後、侍をやめました。自分 らなかったと思います。 までして、母親への孝行のために帰 すが、これが本当なら、のちに脱藩 あり。」「哀しまなかった」とありま くこれを強ふ。(中略)先生、 ん」といわなかったが、「祖父、 ことを欲す。父母、その一男なると の根源をたずねるの意の「原」とい が果たせなかった夢を託し、子に己 臣になりました。父も武士でしたが、 岳の戦で手柄を挙げ、 が尊んだ呼び名です。 とあります。「藤樹」 略)幼より物に愛着せず。故に父母 祖父小川村に来て、先生を養はん 九歳。祖父と米子へ。年譜には 祖父は、 は、 加藤光泰の家 周辺の者 賤ケ 中 古

十一歳。先ほどの行状に「十一歳 大欲の雑なきもの」(欲望の否定) 大欲の雑なきもの」(欲望の否定) 大でない。(中略)是より聖学んで至るべし。(中略)是より聖学んで至るべし。(中略)是より聖学をでする儒教は秦に迫害されました。その後、宋代になって朱子学として失った思想的立場を回復と制度を作る聖王でしたが、朱子学として失った思想的立場を回復という。朱子学以前の「聖人」では、聖人」を「大びの雑なきもの」(欲望の否定) 大欲の雑なきもの」(欲望の否定)

としました。としました。

行していました。
てとを厳密に守ることで、それを実す。「格套(格法)」は、定められたなをを放っての用す。(略)」とありまれたが、「およりで、「おりました。」とものまでは、「およりでは、「およりでは、「およりに

三十一歳。「詩女母弟并に長人をて、先生の病苦の始まりでした。 意)を患ふ、きわめて甚だし。」とあっ 意)を患ふ、きわめて甚だし。」とあっ な。帰路、船中にして始めて哮喘(喘 で、先生の病苦の始まりのしま。 こ十五歳。二度目の帰省をし、孝

折を覚え、「五経を取りて熟読するず。」と朱子学が求める厳格さに挫の道かくのごとくならば、今の世にのがない、吾輩の及ぶところにあらみて堅く格法を守る。(中略)聖人みたい、と朱子学が求める厳格さに換る。 (中略)を

に、触発感得あり。」と朱子学以前の儒教である五経に進むべき道を求め、著わした「持敬図説・原人」には「敬と云ふは、天命を畏れ徳性を尊ぶ之謂なり。」という先生の考えが書かれています。そして、藤樹書院を開いたときに、学則「藤樹規」に「天命を畏れ 尊徳性を尊ぶ 右、情敬の要、進脩の本なり」の言句を掲げました。

三十五歳。「先生近時専ら孝経を 三十五歳。「先生近時専ら孝経を ということです。愛敬は孝経 の中にある言葉で、愛敬をもってす が滅せず。(中略)則ち聖人の心な であるということです。愛敬は孝経 の中にある言葉で、愛敬をもってす の中にある言葉で、愛敬をもってす の中にある言葉で、愛敬をもってす の中にある言葉で、愛敬をもってす の中にある言葉で、愛敬をもってす の中にある言葉で、愛敬をもってす の中にある言葉で、愛敬をという世界に が滅せず。(中略)親 を関していきという世界に を関しているという世界に を関いるということです。 の中にある言葉で、愛敬をという世界に ということです。 の中にある言葉で、愛敬をという世界に の中にある言葉があり、 の一にもいる言葉があり、 の中にある言葉で、 の中にある言葉で、 の中にある言葉で、 の中にある言葉で、 の中にある言葉で、 の中にある言葉で、 の中にある言葉で、 の中にある。 の中にある言葉で、 の中にあるという世界に の中にあるという世界に の中にあるという世界に の中にある言葉があり、 の言葉があり、 の言葉があります。

書を求め得たり。これを読んで甚だ三十七歳。「是年、始めて陽明全

と書いています。 を書いています。 と書いています。 と書いています。。 と書いています。。 と書いています。。 と書いています。。 とあります。 と書いています。 と書いています。 とあります。 と書いています。

たということです。 に至って、「天理に純にして、人欲 発した先生の道は、「天衢に出ずる」 意味の詩を詠んでいます。本名原に に辿りつくことができた。』という を乗り越えて、老いてようやく天衢 なせるように、わたしも多少の苦難 暴れ馬も手なずければ自在に乗りこ の影が波にも砕けない。勢い盛んな た、『青々とした深い淵に映えた月 と友人への書簡に書いています。ま ら、これで先が明るくなったのだ』 ように、『自分には憤悱があったか あってこそ前に進めるのだ』とある くなります。しかし、論語述而に『憤 を里の亀山で出産後に体調を崩し亡 の雑なき」聖人の心の境地まで行っ 三十九歳。奥さんが、次男鐺之助 (疑問を解決できない苛立ち) が

です。先生は生涯を終える前に聖人て、修己はそのために求められるのすることです。目的は治人にあっを斉え、国を治め、天下を平らかー身をもって万人の模範となり、家人」にあります。己の徳を修めて、結びです。儒教の目的は「修己治

の心境になりましたが、聖人になる 目的はその心を持って人々に尽くす ことであって、新たな苦難の始まり でもありました。先生は大洲藩のを に藩は辞しましたが、武士は辞めな に来る大洲藩士の子は、勉学を積ん に来る大洲藩士の子は、勉学を積ん に来る大洲藩士の子は、勉学を積ん がつたと思います。藤樹書院に学び に来る大洲藩士の子は、勉学を積ん かったと思います。藤樹書院に学び かったと思います。藤樹書院に学び かったと思います。藤樹書院に学び かったと思います。

の愛敬は本心の自然な顕われであっ の大基本なり」とあり、愛敬惺惺と 敬惺惺の心則ち万物を愛敬する処の 敬〟を自分の大本をとして選びまし としました。先生はその中から、愛 陽明は良知をもってそれぞれの大本 孝経は愛敬とし、朱子は天理を、王 るからです。 べてに感通して、平天下の基盤とあ て、翁問答にもあるように人倫のす は愛敬の道理を悟ることですが、そ 心。万物を愛敬する処の心則ち治国 た。私がそう思うのは中庸続解に「愛 れをもって明徳とし、中庸は誠とし、 〔人を愛すること〕です。大学はそ 儒教の中心教義は論語でいう仁

を築くことだったのだろうと思いまの大地に愛敬に充塞された太平の世が、一切の既成事物を撤去した更地任」の真意は推測の域を出ません任」の真意は変した変になった。

だと思います。だと思います。しかし、それは理想です。「この道の任」の道とは理想へと進む慈るのは、愛敬をもって人々に接し、るのは、愛敬をもって人々に接し、るのは、愛敬をもって人々に接し、の道の任」の道とは理想への道程です。しかし、それは理想です。「こす。しかし、それは理想です。「こ

たとえそれが苦難に満ちた道でたられたものです。

「道を求むるは洛陽へ上るに譬え中し候。洛陽へ上る志をかたく立て中し候。洛陽へ上る志をかたく立て、堕落ではた好き、退屈なく候へば、終に洛とでゆき、退屈なく候へば、終に洛陽に至るものに候。その如くに聖人に至らんとの志をかたく立て、といへども、ひたすらに上る道に至らんとの志をかたく立て、堕落しては提撕し改め、進脩に退屈なくしては提撕し改め、進脩に退屈なくが事がした。

「この道の任、誰かあるか」と呼っ先生の呼びかけは、時空を超えて現代に生きる者に向けられたものだっれぞれが自分の大本を立て、先生と我々は受け止めねばなりません。それぞれが自分の大本を立て、先生で呼びかけに応えることが重要です。先生に再び「嗚呼無し」といす。先生に再び「嗚呼無し」といった。

ます。ありがとうございました。これをもって終わらせていただき

藤樹思想を学び考え実践する藤樹人間学塾…

塾 長田中清行

の場で実践することを目論しながら考えを深め、日々の生活に、時事問題と組み合わせて皆で議の著書を中心に思想を学ぶとともの著書を中心に思想を学ぶととも

的に毎月開催しています。

本稿ではその模様をお伝

九名でした。
塾を開きました。参加者は
五月、第百十四回人間学

しが見える。国家まさに滅は、およそ天下の事も前は、およそ天下の事も前は、およる天下の事も前は、およるでいできる。

びようとする時には禍の

高島藤樹会の活動

は神のようなものである」。
は神のようなものである」。
は神のようなものである」。(中略)常人は欲心時しが見える。(中略)常人は欲心時しがあれるとがあると必ずわざわいので禍福のまがあると必ずわざわいので禍福のまる。(中略)常人は欲心は神のようなものである」。



ました。参加者は十二名でした。 六月、第百十五回人間学塾を開き

でも周囲の声に振り回されず、自分 にできることに集中してきた。私を にできることに集中してきた。私を にできることに集中してきた。私を にできることに集中してきた。私を にできることに集中してきた。私を を当のヒーローは、医療従事者など 本当のヒーローは、医療従事者など 本当のピーローは、医療従事者など 本当のピーローは、医療従事者など を当のとしてという人もいるが、 を がまが期待通りに進まないとき など を が、コロナワクチンの発明者の まず、コロナワクチンの発明者の

『中庸解』第二十五章です。大意明いれば上手くいく」。

今回は参考資料として、NHKの 今回は参考資料として、NHKの でなくすためには、第一の矢(痛 ないことが大切。苦しみを無くする ための「八正道」の説明もしました。 でリートーキング等では「高島市 の聖火リレーで全盲の選手が走って いたが前向きな姿に感動した」等の がたが前向きな姿に感動した」等の

─ になったという痛みを苦しみに直結─ 全盲の聖火ランナーの話は、全盲

七月、第百十六回人間学塾を開きされた好事例だと思います。 させず、(前向きな生き方) に昇華

ました。参加者は八名でした。 七月、第百十六回人間学塾を開き

の西郷の至誠のためだった」と語っ意に満ちた「至誠」の人であり、江意に満ちた「至誠」の人であり、江意に満ちた「至誠」の人であり、江東の資料を用意しました。

ている。

その西郷の「座右の書」が佐藤一条の西郷の「座右の書」が佐藤一斎は、幕府の儒官でたる。その佐藤一斎は、幕府の儒官でたろ陽明学に強い関心を抱いており、五十歳の時、「藤樹書院」を参詣している。藤樹の至誠の教えが幕ま・明治維新に大きな影響を及ぼしていたことが分かる。

生かされているという教えは、ヨガは「至誠が大宇宙に充満し私たちがフリートーキングで、参加者から

の元であるインド哲学と合う」、 の意見をいただきました。

しください。心からお待ちしていま 八間学に関心のある方は是非お越

藤樹人間学塾 今後の予定

九月十八日(土)、十月二日(土) 十一月六日(土)、十二月四日(土) 日時 (原則) 十五時~十七時 (原則) 安曇川公民館

中江藤樹 心のセミナーの開催

別紙チラシのとおり開催いたしま た「中江藤樹・心のセミナー」を、 拡大防止策を講じて実施します。 ご参会をお待ちしています。 コロナ禍のために延期していまし 入場者数の制限等、 コロナ感染

九月二十五日(土)

十五時二十分~十七時 (十四時四十五分開場

★演題 「今、藤樹先生の教えを 滕樹の里文化芸術会館

★講師 東洋大学名誉教授 どう活かすか

吉田公平 先生



藤樹かるた」の紹介①

企画広報委員会

リーズで紹介します。 が発行している「藤樹かるた」をシ 今号から、高島藤樹会・藤樹書院

うです。その詳細については、この うで、それに絵をつけて完成したよ 生の教えを謳ったかるたがあったそ り制作されたとのことです。それま よりますと、初版のかるたは、 でに青柳小学校に、絵の無い藤樹先 五十八年に安曇川町教育委員会によ シリーズの最後に紹介します。 当会初代会長の上田藤市郎先生に 昭和





『藤樹かるた(第2版)』

(はじめに)

を迎えます。 る中江藤樹先生の生誕から四○○年 高島市の郷土の先哲として敬愛す

います。 継承され、 長きにわたってもなお、多くの人に 先生の尊い学徳や生き方は、この 今の教育にも生かされて

りに再び刊行することができまし 祭を機に改訂版として、二十五年ぶ となっていましたので、この四百年 親しまれてきましたが、すでに絶版 樹かるたは昭和五十八年三月に安曇 かるた」改訂版を作成しました。藤 るに当たって協賛事業として「藤樹 川町教育委員会から刊行され、長く 今回、 先生の生誕四〇〇年を迎え

内容にと心がけて改訂いたしまし れる絵柄、よく理解していただける 小学生や幼児の皆さんにも親しま

このかるたで楽しく遊んでもらう

端にふれていただくことを心から 願っております。 ことで先生の学徳や求道の生涯の 平成二〇年(二〇〇八年)三月

藤樹かるた制作委員会

(かるたと解説

今もなお 藤の花 書院に薫る



の里のシンボルとして親しまれてい 毎年初夏に美しい花をさかせ、 ではあるが藤樹書院一隅にあって、 齢三五○年を経ていた。今は二代目 藤樹先生が愛された藤の木は、

論よりは 与右衛門さん 車を上げる



間に引き上げることができた。 けで、誰ひとり助けようとする人が 中にはまってしまい、馬方が困って さんの米俵を積んだ馬車が田んぼの 用事でとなり村からの帰り道、 合わせて手助けしたので、またたく ぐに田んぼの中に入り着物の汚れも いない。先生はこの様子を見て、す 人ががやがや言いながら見ているだ いるところに通りかかった。多くの 今まで見ていた人たちも一斉に力を 気にせず助けようとされたところ、 ある日、 藤樹先生(与右衛門)が

玉林寺

は 母と子が 眠るお墓の



墓所は上小川の人々の手でいつも美 先生が静かに眠っておられる。この しく守られている。 上小川の玉林寺門前の墓所に、藤 先生のお母さん、三男常省

樹先生、

藤樹さん にこにこと いつも変わらぬ



囲気になった。 その場におられるだけで和やかな雰 度で人に接し、 藤樹先生は、 何も言われなくてもいつもおだやかな態

方々から 藤のもと 慕い訪ねる



も変わらず多い。近年は、毎日のよ 教えを慕い求めて来る人が、昔も今 藤樹先生のすぐれた学問や徳行の

> うに全国各地から絶えず人が訪れて いる。

> > 大洲での少年時代に、

遠くはなれ

よく学び 兵法も 学問とともに



された。 考え、学問の大切さを身をもって示 文武は両方とも同じように大事だと にした時代にあって、藤樹先生は、 江戸時代初期の武芸や武道を大切

遠く居て 涙する 母のあかぎれ



である。 明治時代の村井弦斎作の有名な物語 母のもとに届けられたという話は、 求めて、冬の雪の中を、 身を心配し、あかぎれこう薬を買い た故郷小川村でひとり暮らしの母の 父の愛 心に秘めて はるばると

学始め



り、幼い与右衛門は祖父とともに米 期待を胸に秘め、学問を始められた。 子へ行かれた。米子では、父の愛と 武士の跡を継がなかった父に代わ

滕樹かるた制作委員会委員

山本義雄 足立清勝・飯田典子・石黒紀代子・ 北川暢子・清川貞治・高谷美智子・ (五十音順)

(次号に続きます)

藤樹書院 • 良知館通信⑫

「己に如かざる者を 友とする母れ」

志村 洋

び出された全九章の第八章目です。を取り上げます。先生が論語から選前回に続いて藤樹先生の「論語解」

信を主とし、己に如かざる者を友と威あらず、学ぶも則ち固ならず、忠「子曰く。君子重からざれば則ち ること勿れ。」 (学而) する母れ。過ちては則ち改むるに憚

に改めよ。(金谷治訳註「論語」から) するな。過ちがあればぐずぐずせず ろの徳である)。 忠と信を第一にし 学問すれば頑固でなくなる(まごこ おもおもしくなければ威厳がない。 先生(孔子)が言われた、君子は 自分より劣ったものを友達には

であるとして、 藤樹先生は、 君子広く学を為す者 次のように言われま

うのは、 出来ないからである。心が軽くなっ卑しく道に背く)暴慢で畏れを象に 我があれば、講習討論しても己を奪からである「固ならず」とは意必固 厳あらず」は視聴言動が鄙倍(心が軽率で浮かれ躁ぐことであり、「威 われ、一撃で粉砕される軟弱なもの て視聴言動を制御出来ずに威厳を失 に終わるのだと、 「重からず」とは、心が安定せず、 意必固我の意念に捉われる 独自の解釈をされ

> 学を為す者であると先生は言われまのが通例ですが、友とするのは興にについては自分より劣った者とする あると、孔子は教えられるのだと先句を挙げて、師友の交わりが大切でに如かざる者を友とする母れ」の一 とは中立不倚(偏りがない)の本心、で、この章の主意はそこにある。忠帰るには忠信を主とする事が必要 れば徳に進む事が出来ないので、「己に従遊して切磋琢磨の功を積まなけ ある。忠信を主とすると雖も、師友信は純一無雑の実心(忠の表れ)で 必固我を取り去って、無病の本体にである初学の通病であるが、その意意必固我に捉われるのは凡夫の心 生は言われます。「己に如かざる者」

る限り、師友に従って講論しても一 学ぶ者の通例である。この病根があ がる難を畏れて疎かになる。これも だが、ともすれば学ぶ者は過ちを改 だが、ともすれば学ぶ者は過ちを改 だが、ともすれば学ぶ者は過ちを改 友の交わりを日々に深める事が従来し、師に従い、友と交わり、その師は百病の根を切る為であり、学を志改めるに憚る勿れと説かれているの場の説話に終わってしまう。過ちを 事で、それを改めるとは本体に帰る る。過ちとは心を無くして理を失う は、過ちを改め、善に還ることにあ初学から聖人に至るまで学問の功 の過ちを改める事に繋がるのだと、

以て主となし、 舎座右銘」に「同志の交際は恭敬を 藤樹書院に掲げられたという「学 和睦を以てこれを行

ず。里巷の歌謡、俚近の語(流行りるべからず。動作、義なかるべから慢(あなどり)にして女色を評論す でしょう。藤樹先生が、君子を広く諸生の中にそのような者がいたから相規すべし」などとされているのは、 らず。宜しく徳業に相勤め、過失、の唄や噂)、これを口より出すべか うべし。 戒められるのがこの章の解です。 の友は得られないと厳しくも優しく 諸生に己に如かざる者であって生涯 学を為す者とされるのは、その彼ら だら)媟穢(けがす)戯(たわむれ) して勝たんことを求む勿れ、淫(み い事)を択ぶ可からず。 毫も自ら便利

賛助会員

★新規賛助会員のご紹介

います。 ご紹介します。ご加入ありがとうござ 会にご加入いただきました賛助会員を 令和三年七月末日までに、新しく本

○富士包装紙器 株式会社 (蒲生郡日野町)

○株式会社 ナカサク

○株式会社 リンクス (大阪市北区池田町) (湖南市高松町)

○株式会社 オミゾ

(高島市勝野)

★既加入の賛助会員一覧

ご協力ありがとうございます。

○大津公証人会 ○税理士法人 淡海総合会計 ○ウェストレイクホテル可以登楼 白髭博文

○大溝工業 株式会社

猥(争う)

○株式会社 大山建設

○岡本アルミ建材 株式会社

○川島酒造 株式会社

○株式会社 Grow ○川島織布 株式会社 S

○株式会社 桑原組

○有限会社 宏和商事 ○税理士法人 小畑会計事務所

○株式会社 澤村 ○佐治タイル 株式会社

○株式会社 シグマックス

○有限会社 白浜荘

○杉橋建設 株式会社

○新旭電子工業 株式会社

○ソエダ 株式会社

○高島鉱建 株式会社 ○田中マネジメント事務所

○株式会社 TADコーポレーション

○鉄屋商事 株式会社

○寺子屋まなざし童心塾

○有限会社 天平フーズ

○株式会社 戸井薬局

○とも栄 藤樹街道本店 ○ナカショウ 株式会社

○株式会社 中田運送

)中村印刷 株式会社

○株式会社 中村測量設計

○ニッケイ工業 株式会社

○八田建設 株式会社 ○戸次会計事務所

○有限会社 馬場塗装

○株式会社 ホリゾン

○株式会社 ヨシダヤ

綿庄食品店

(五十音順)